

# ウズベキスタン公開情報とりまとめ (6月19日～7月2日)

令和2年7月10日

## 1. 政治

### 【ミルジヨーエフ大統領動静】

#### ●ミルジヨーエフ大統領とナザルバエフ・カザフスタン初代大統領の電話会談

- ・6月22日、ミルジヨーエフ大統領は、ナザルバエフ・カザフスタン初代大統領と電話会談を行った。
  - ・会談冒頭、「ミ」大統領は、「ナ」初代大統領の（新型コロナウイルスからの）一日も早い快復、健康、活力を祈念した。
  - ・双方は、同ウイルスの感染拡大の防止、並びにダイナミックに発展している二国間関係及び両国の経済に及ぼすパンデミックの悪影響を最小限に抑制することを目的として両国政府が講じている共同措置について議論を行った。これらの分野における共同の取り組みの調整を更に強化していく重要性が強調された。
  - ・何世紀にも亘る友好、善隣関係、戦略的パートナーシップの原則に基づく二国間の実務的協力が拡大していることが満足の意を持って指摘された。互恵的な協力の優先分野における共同プロジェクトが実施されている。10件以上の新しいプロジェクトの実施及び産業分野の協力の深化に関する「ロードマップ」が採択された。
  - ・双方は、今後の会談及びその他のイベントのスケジュールに関して意見交換を行った。
  - ・会談の最後に、双方は、両国民の平和、繁栄、幸福を願った。
- (6月22日付大統領府ウェブサイト)

#### ●ミルジヨーエフ大統領による露への実務訪問

- ・6月23～24日、ミルジヨーエフ大統領は、プーチン大統領の招待に応じ、露を実務訪問する。
  - ・訪問日程によると、23日、両国による首脳会談の実施が予定されており、両国の多面的協力に関する重要な問題について検討が行われることとなっている。
  - ・24日、「ミ」大統領は、対ファシズム大祖国戦争戦勝75周年の記念行事に出席する予定である。
- (6月22日付大統領府ウェブサイト)

#### ●ウズベキスタン・露両国の首脳会談

- ・ミルジヨーエフ大統領の露の首都モスクワにおける滞在プログラムの最初の行事は、両国の首脳会談であった。
- ・「ミ」大統領は、6月23日晚、クレムリンにおいてプーチン大統領に迎え入れられた。会談において、戦略的パートナーシップ及び多面的な協力関係のさらなる強化について検討が行われた。
- ・「ミ」大統領による露への公式訪問が近日中に予定されていたが、新型コロナウイルスのパンデミックの世界的な広がりにより予定が変更され、同訪問は延期されることとなった。
- ・「プ」大統領は、「ミ」大統領に対し、大祖国戦争の勝利に関する記念式典への出席について感謝の

意を表明した。

・6月24日に赤の広場で実施されるパレードに、「ウ」軍が参加することは歴史上初であることについて、「プ」大統領は「これは我々の特別な同盟的關係の非常にはっきりとした現れである」と指摘した。

・「プ」大統領はまた、「ウ」による大祖国戦争における勝利への多大なる貢献、後援支援部隊の尽力、撤退した者達に対する「ウ」民族の寛大な心に対して個別に強調した。また、タシケントにおいて勝利公園が建設されたことも特に指摘された。

・これに対し、「ミ」大統領は「プ」大統領とすべての露国民に対し、偉大な記念日を祝い、「これは、我々の共通の歴史であり、共通の勝利である」と述べた。また、露側に対し、タシケントの勝利公園の記念館の資料を増やすために（露の）記録及び公文書を提供し、また、「ウ」国民の大祖国戦争における貢献に関するより信頼できる統計データを立証する用意があることに対して謝意が表明された。

・双方は、近年の両国關係のダイナミックな発展を満足の意を持って指摘した。

・世界的危機に伴う悪影響にもかかわらず、（両国の）貿易高は堅調に伸びている。昨年の貿易高は66億米ドルに達し、本年については前半数ヶ月だけで約20億米ドルとなっている。

・両国の主要な企業は協力を深化させている。現在、共同企業は2,000社存在し、新規の投資案件の総額は120億米ドル以上であり、両国經濟のすべての主要部門をカバーしている。総じて、（今までの）露から「ウ」經濟への投資は100億米ドルを超えている。

・更なる優先的分野として、科学・教育分野における非常に活発な交流が挙げられる。この数年で、「ウ」において露の主要な大学の分校が7校設立され、分校の総数は既に10校に達している。また、将来的に更に4校の露大学の分校の開校が予定されている。

・このような互恵的かつ好ましい結果をもたらしている協力の例は非常に多い。貿易、投資、交通、教育のみならず、農業、科学、イノベーション、保険、文化、観光、その他の重要な分野もそのような協力にあてはまる。

・双方は、両国關係の重要な問題について将来な検討を行った。首相級共同委員会及び政府間委員会の枠組において、活発な対話を継続し、また、諸合意の着実な実施を確保する重要性が強調された。

・両国の政府に対して、新規の經濟プログラム及び画期的な投資プロジェクトに関心を払いつつ、予定されている（公式訪問の際の）首脳会談の入念な準備を行うよう指示が出された。

・双方はまた、國際場裏及び地域における問題についても意見交換を行った。CIS及び上海協力機構の一連の首脳会合の準備及び開催を含む、予定されている諸会合の予定の調整が行われた。

・これをもって、「ミ」大統領と「プ」大統領の会談は終了した。明日（6月24日）、「ミ」大統領は対ファシズム大祖国戦争戦勝記念75周年記念行事に出席することが予定されている。

（6月23日付大統領府ウェブサイト）

## ●ミルジヨーエフ大統領の訪露における行事

・大祖国戦争戦勝75周年記念パレード

（1）既に明らかなように、大祖国戦争戦勝75周年記念パレードは本年5月9日にモスクワにおいて実施されるはずだったが、新型コロナウイルスのパンデミックにより延期された。そのため、勝利を飾った1945年において初めて戦勝記念パレードが実施された6月24日が、延期された式典の日程と

して選ばれたのであった。

(2) この歴史的行事を共に祝すため、露政府から戦勝国の首脳宛に招待状が発出されたが、この恐ろしい戦争における勝利に対する我が民族の貢献が誇張無しで甚大であったことを踏まえ、その招待の宛先にはウズベキスタンも含まれた。

(3) 最近実施された研究によると、大祖国戦争には約200万人の「ウ」国民が動員され、彼らが銃後で発揮した堅牢さは、次の世代の大きな誇りとなった。

(4) このような経緯で、「ウ」の代表者は戦勝75周年という栄光ある年を記念する式典に参加した。

(5) 現下のパンデミックに係る困難な状況において、ミルジヨーエフ大統領の出席は我々の先祖に特有の英雄的精神の発現である。「ウ」独立後、史上初めて「ウ」大統領がこの歴史的行事に出席し、専門家の意見によると、これは同行事の権威を大きく高めた。

(6) また、「ウ」独立後、史上初めて「ウ」軍隊がパレードに参加した。「ミ」大統領が昨日(6月23日)のクレムリンにおけるプーチン大統領との会談で指摘したように、これは我々(露・「ウ」)の共通の歴史であり、共通の勝利である。我々の国民によって発揮された堅忍不拔さは、我々全員の果てしなき誇りの根源である。

(7) モスクワの赤の広場で実施された記念行事への出席を通じて、「ミ」大統領は改めて、栄光ある勝利に対する「ウ」国民による広く認められた多大なる貢献に対し敬意を表明した。

(8) 同時に、前線及び銃後で悲劇や苦難に耐え、取り返しのつかない損失を伴った勇敢な「ウ」国民の功績が国際社会のレベルで祝賀された。

(9) 我々の父、祖父たちに敬意を表し、パレードにおいて「ウ」軍が行進に参加した。

#### ・無名戦士の墓への献花

「ミ」大統領は、モスクワのアレクサンドル庭園にある無名戦士の墓に献花を行い、将来の人類の平和の名の下に命を捧げた愛国者達に敬意を表した。

#### ・イスラム・カリーモフ記念広場への訪問

(1) 「ミ」大統領は、モスクワの在露「ウ」大使館の近くに位置するイスラム・カリーモフ記念広場を訪問した。「ミ」大統領は、(カリーモフ初代大統領の)銅像の足下に献花を行い、著名な政治家であり我々民族の偉大なる息子でもある「カ」初代大統領に敬意を表した。

(2) 「カ」初代大統領は、多才な政治活動及び高貴な人柄によって、祖国の何世紀にも亘る歴史に消えることのない痕跡を残した。「ウ」のみならず国際社会においても深甚なる敬意と権威を有していたこの傑出した人物に敬意を表し、2018年10月18日にモスクワにおいて銅像が設置された。

#### ・同胞との出会い

イスラム・カリーモフ記念広場への訪問の際、「ミ」大統領は、(周囲に)集まっていたモスクワに滞在する「ウ」人の同胞達に対して挨拶をした。

(6月24日付大統領府ウェブサイト)

### ●ウズベキスタン・トルクメニスタン両国首脳による電話会談

・6月29日、ミルジヨーエフ大統領は、ベルディムハメドフ・トルクメニスタン大統領と電話会談を行った。

・会談冒頭、「ミ」大統領は、「ベ」大統領の誕生日を心から祝福するとともに、同大統領の健康、幸

福、成功を祈った。

- ・「ベ」大統領のリーダーシップの下で達成された現在の「ト」の大きな成果、すなわち、社会・経済の持続的な発展及び国際場裏における同国の権威の着実な向上が特に指摘された。
  - ・会談において、二国間協力及び地域的アジェンダに関する重要な問題が検討された。
  - ・双方は、両国の友好、善隣関係、戦略的パートナーシップ関係が前向きに強化されていることに大きな満足の意を表明した。
  - ・特に貿易、産業、エネルギー、農業、交通、トランジット輸送、観光の分野における互恵的な実務協力を更に拡大する必要性が協調された。
  - ・双方は、国境地域における積極的な交流の継続、並びに教育、文化・人的交流の拡大を支持した。
  - ・政府間委員会の枠組において、共同プログラム及びプロジェクトを策定することで合意した。
  - ・双方は、新型コロナウイルスの感染拡大に効果的な対策を講じるための、関係省庁レベルにおける緊密な対話及び調整の重要性を指摘した。
  - ・会談の終わりに、双方は、兄弟国である両国関係の包括的発展及び拡大への相互のコミットメントを再確認した。
  - ・会談はいつものように温かく友好的な雰囲気の下で行われた。
- (6月29日付大統領府ウェブサイト)

#### ●ウズベキスタン・露両国首脳の電話会談

- ・7月2日、ミルジヨーエフ大統領とプーチン露大統領との電話会談が行われた。
  - ・会談の冒頭、「ミ」大統領は露の憲法改正に関する全ロシアで行われた国民投票という重要な政治的出来事が成功裡に実施されたことに祝意を表した。
  - ・両首脳は、ウズベキスタンの代表団も参加した戦勝記念75周年関連祝賀行事のひとつとして、モスクワにおいて実施された二国間会談の多い成果について深い満足の意を表明した。
  - ・また、両首脳は、両国の戦略的パートナーシップ及び同盟的關係の更なる強化、多面的協力の更なる発展に対するコミットメントを強調した。
  - ・(会談では) 予定されている首脳レベルの諸訪問の議題、二国間の貿易・経済関係における新型コロナウイルス感染症の地球規模での拡大による否定的な影響を軽減するための協調措置の継続についても特に注意が払われた。
  - ・会談では、重要な国際政治の重要な問題に関する意見交換も行われ、C I S及び上海協力機構(S C O)の首脳会合の準備や実施についても検討された。
  - ・会談は伝統的に和やかで、開かれた、友好的な雰囲気の中で行われた。
- (7月2日付ウズベキスタン大統領府サイト)

#### 【外政】

#### ●ウズベキスタンとキルギスの両国首相による電話会談

- ・6月20日、アリーポフ首相は、ボロノフ・キルギス首相と電話会談を行った。
- ・「ア」首相は、「ボ」氏の首相就任を祝うとともに、二国間関係の発展が新たな勢いを獲得し、両国間の協力が更に強化されることを確信している旨表明した。

・会談において、双方は、政府間協力委員会会合の開催について議論した。両国首相が率いる両国政府代表团による前回の会談は、2019年8月、ビシュケクにおいて実施された。

(6月20日付 Kun. uz)

### ●カミーロフ外相とハリルザード米アフガン和平特使等との会談

・6月30日、カミーロフ外相は、ハリルザード米アフガン和平特使及びボーラー米国際開発金融公社(DFC)最高経営責任者(GEO)と会談を行った。

・双方は、緊密な政治交流が確立していること、並びに貿易・経済、文化・人的交流及び軍事技術協力関係が強化されていることに満足の意を表明した。

・(会談において)ウズベキスタン側は、中央アジアの安定は「ア」の安全保障にかかっているとして、「ア」における速やかな平和の確立を特に重視している旨が指摘された。米側は、「ア」の政治的指導者間による協定の達成に支持を表明し、包括的政府と国民和解高等評議会の設置は、「ア」の明るい未来の名の下に「ア」の全ての政治勢力が団結することに資する旨を強調した。

・会談では、「ア」問題における両国の相互協力の拡大に注意が払われた。この文脈で、5月27日に行われた第1回「『ウ』-米-『ア』」相互協力の三者会談(冒頭往電)は、「ア」の復興及び地域経済プロセスへの「ア」の積極的な誘致に関する実務的な提案を策定する上で意義があることを確認した。

・米側は、「ア」情勢の平和的解決における地域的アプローチの推進に関する「ウ」指導部の尽力を高く評価し、同問題において積極的に協力していく用意がある旨確認した。

・会談では、「ア」と地域諸国との間の経済及び運輸・交通関係の拡大を支援する一連のプロジェクトの財源として米国際開発金融公社(DFC)の資金を誘致することについての意見交換も行われた。「ボ」CEOは、DFCはエネルギー、インフラ、医療及び教育分野のプロジェクトの「ウ」での実施に参加する用意がある旨表明した。

・会談では、相互に関心を有するその他の問題についても議論された。

(6月30日付外務省ウェブサイト)

### ●「中央アジア+米」外相テレビ会合

・6月30日、カミーロフ外相は「中央アジア+米」(「C5+1」)外相テレビ会合に出席した。

・同会合には、トレウベルディ・カザフスタン外相、アイダルベコフ・キルギス外相、ムフリッディン・タジキスタン外相、メレドフ・トルクメニスタン副首相兼外相、ポンペオ米国務長官も出席した。

・出席者らは、地域経済協力の強化、新型コロナウイルスの感染拡大への対策を含む、現代の課題や脅威への対応策などの重要な問題について議論した。

・カミーロフ外相は、新型コロナウイルスのパンデミックを背景とする最近の地球規模の変化を踏まえ、デジタル経済の発展、国家間運輸戦略の統合、農業におけるイノベーションの促進、地域諸国のエネルギー分野の能力強化、アラル海地域のイノベーション技術推進エリアへの転換を含む、中央アジアにおける環境上好ましくない地域の社会・経済情勢の改善への努力の活性化などの分野における共同の取組に焦点を当てる提案を行った。

・また、「カ」外相は、「ウ」側はアフガニスタンの和平プロセスの推進に関する国際社会の積極的な努力を支持していることを指摘した。

・参加者らの発言において、「C5+1」フォーマットは、中央アジアにおける平和、安定及び繁栄のプラットフォームとしての意義と重要性を示し続けていることが確認された。

(7月1日付外務省サイト)

#### ●藤山美典駐ウズベキスタン特命全権大使とイルガーシェフ・アフガニスタン問題大統領特別代表との会談

・2020年7月3日、イルガーシェフ・アフガニスタン問題大統領特別代表は、藤山美典駐ウズベキスタン特命全権大使と会談を行った。

・会談において、双方はアフガン問題、特に「ア」における和平に向けた対話プロセスの開始のための協力の拡大に関する両国の取組について議論を行った。

・日本側は、すべての「ア」民族のため、「ア」における長期的かつ持続的な和平の達成、並びに社会・経済インフラの復興に向けて引き続き積極的な協力を行っていく用意がある旨表明した。

・特に、藤山大使は、「ア」における新規の鉄道及び送電線網の建設計画に対して関心を示した(ママ)。

(7月3日付外務省ウェブサイト)

#### 【内政】

#### ●ナルバーエヴァ上院議長による当地における人身売買や強制労働を含む人権問題に関する報告

・多くの場合において、ウズベキスタンにおいて人々が自分の子供を売るのは、家庭の厳しい状況、経済的な問題、罪を隠したいという願望、住居購入の必要性に因るものである。

・2019年は、人身売買に関する犯罪のうち、43%が、両親による子供の売却であるという(2018年度は38%)。特にこの指標が高いのはシルダリア州とホレズム州であり、同様の事件がそれぞれ5件ずつ発生した。昨年度は、このような罪を犯したとして72名が有罪判決を受け、そのうちの大多数が女性であった。さらに、発生した3分の1以上のケースにおいて、新生児の売買取引に医療従事者が仲介者として関わっていた。

・人身売買においては、女性一人や誰か一人の人間が悪いということだけではない。そのような状況を作り出し、そうさせてしまうような環境があることが明らかになってきている。この状況は「ウ」の社会にとって特有のものではない。我々は異なるアプローチをとらなければならない。そのために、上院の人身売買・強制労働対策委員は子供の売買について個別に研究し、改めて同問題を検討する。

・2019年には、約3000の機関及び企業に対するモニタリングが実施され、その結果、強制労働を許容し労働者に対して必要な労働環境を整備しなかったとして300人以上の役人が罰金刑を受けた。労働移民の利益のため、海外の雇用者から、彼らが違法に(労働移民から集めて)保持していた合計約53万米ドルが徴収された。

・2019年に、国際労働機関(ILO)代表部及び(「ウ」)労働組合連盟と共同で、議員らは綿花採集の現場における人権侵害に関する状況についてモニタリングを実施し、その結果、同部門における児童労働及び強制労働の制度的な実施は根絶された(「Fergana」編集部注:なお、ILO発表のデータによると2019年は10万人以上が強制的に綿花収集に動員されている)。一方で、地方政府や省庁の指導部が部下をその担当ではない業務をさせていたという事実が確認されており、地方政府の役人によるこのような行為は政府全体のイメージの低下に繋がる。

(6月18日付 Fergana 及び Gazeta)

### ●オチーロフ元駐日大使（令和元年度外国人叙勲受章者）の逝去

- ・投資・対外貿易大臣顧問であり，2001年から2009年まで駐日大使を務めたミルサビット・オチーロフ氏が逝去した。
  - ・投資・対外貿易省は，「オ」大臣顧問（日本との協力担当）の早すぎる死を伝えた。かつて駐日大使を務め，「旭日重光章」受章者である「オ」氏は，2020年7月2日に逝去した。
  - ・「オ」氏は，1999年に最高議会下院議員に選出された。同省は，「大学教授，経済学博士，銀行・金融アカデミー初代学長，2001年から2009年にかけて駐日大使を務めた『オ』氏は全ての者にとって模範であった」と伝えている。
  - ・同省は，（故人の）親族及び近い者に哀悼の意を表した。
- (7月3日付 Gazeta)

## 【治安】

### ●ウズベキスタン内務省及び国家保安庁が国際テロ組織構成員25名を逮捕

- ・内務省報道部は6月23日，同省と国家保安庁の捜査官がタシケント市及びタシケント州において地下活動を行っていた国際テロ組織「カティーバ・アル・タウヒード・ワル・ジハード」のグループの信奉者による違法な活動を摘発したと発表した。
  - ・同省の情報によると，（摘発された）これらの者たちは，現在，シリアの国際テロ組織に属している「ウ」人のA. アブドゥカハーロフ（2001年生まれ）及びその信奉者の影響を受けていた。彼らは過激主義的内容を含む動画について議論し，ヒジュラやジハードを敢行するためにシリアへの渡航を計画していた。
  - ・注目すべきは，摘発された中の3人が過去にテロや過激主義に関係する罪の前科を有しているにもかかわらず，自身を全く省みることなく，この活動に戻っていたという点である。
  - ・刑法第244条の2第1項（宗教的過激主義，分離主義，原理主義，その他の禁止組織の設立，指導，参加）に基づく刑事事件捜査の一環として，タシケント市アルマザール地区，ウチテパ地区，チランザール地区，ヤッカサライ地区，セルゲリ地区及びタシケント州ザンギアタ地区の25名の住居に対する捜索が行われ，25名が逮捕された。同人らの住居からはテロ活動を示す物的証拠が発見され，現在，追及捜査が進められている。
- (6月24日付 Podrobno)

### ●ウズベキスタン内務省及び国家保安庁が国際テロ組織構成員11名を逮捕

- ・内務省は6月30日，「ウ」国内でその活動が禁じられている国際テロ組織「カティーバ・アル・タウヒード・ワル・ジハード」の信奉者を摘発したと発表した。共同作戦は，内務省，国家保安庁，「タ」市内務総局，国家保安庁「タ」市局によって遂行された。
- ・刑事事件捜査の一環として，「タ」市アルマザール地区及びシャイハンタウル地区の8箇所に対する捜索が行われ，11人が内務省に逮捕された。
- ・内務省の発表によると，犯人らは，シリアで現在も活動中の上記組織の戦闘員の影響を受け，ヒジュ

ラヤジハードを敢行するためにシリアへの渡航を計画していた。

- ・犯人らの住居において、犯罪に関係する物的証拠が発見され、現在、捜査が継続されている。  
(7月1日付 Gazeta)

## 【その他】

### ●新型コロナウイルス：6月22日から7月25日までの在外ウズベキスタン国民の帰国用チャーター便の運航スケジュール

・ウズベキスタン政府は、6月22日から7月5日にかけて、在外ウズベキスタン国民を帰還させるためのチャーター便を運航すると発表した。全部で21のチャーター便が運航され、約4,800人の在外「ウ」人が本国に帰国する予定となっている。

・チャーター便の運航予定は以下のとおり（括弧書きのないものはすべてウズベキスタン航空によるもの）。

- (1) 6月22日 サンクトペテルブルグータシケント往復便（ロシア航空）
- (2) 6月23日 タシケントーモスクワ往復便
- (3) 6月24日 テルアビブータシケント往復便（イスラエル航空）
- (4) 6月24日 タシケントーノボシビルスク（露）往復便
- (5) 6月25日 タシケントーモスクワ往復便
- (6) 6月25日 タシケントーニューヨーク往復便
- (7) 6月26日 タシケントーイスタンブール往復便
- (8) 6月27日 タシケントーシャルジャ（UAE）往復便
- (9) 6月28日 タシケントーニューヨーク往復便
- (10) 6月28日 タシケントーモスクワ往復便
- (11) 6月29日 ソウルータシケント往復便（アジアナ航空）
- (12) 6月29日 タシケントーイスタンブール往復便
- (13) 6月30日 タシケントーモスクワ往復便
- (14) 7月1日 タシケントーモスクワ往復便
- (15) 7月2日 タシケントーサンクトペテルブルグ往復便
- (16) 7月2日 タシケントーリガ往復便
- (17) 7月3日 タシケントーノボシビルスク往復便
- (18) 7月3日 タシケントーカザン（露）往復便
- (19) 7月4日 タシケントーエカテリンブルク（露）往復便
- (20) 7月4日 タシケントーモスクワ往復便
- (21) 7月5日 タシケントーロストフ・ナ・ダヌー（露）往復便

(6月23日付 Gazeta)

### ●新型コロナウイルス（ウズベキスタンにおける感染発生状況等の報告：感染者数累計8,781人）

- ・感染者数（累計）：8,781人（前日比+278名），時系列の発生者数は以下の通り。
- ・3月15日～31日 167人



・ 4月 1日～30日	1,850人
・ 5月 1日～31日	1,606人
・ 6月 1日	79人
・ 6月 2日	58人
・ 6月 3日	83人
・ 6月 4日	96人
・ 6月 5日	68人
・ 6月 6日	87人
・ 6月 7日	237人
・ 6月 8日	109人
・ 6月 9日	80人
・ 6月10日	103人
・ 6月11日	118人
・ 6月12日	128人
・ 6月13日	97人
・ 6月14日	114人
・ 6月15日	183人
・ 6月16日	230人
・ 6月17日	189人
・ 6月18日	85人
・ 6月19日	179人
・ 6月20日	207人
・ 6月21日	162人
・ 6月22日	146人
・ 6月23日	201人
・ 6月24日	239人（1日当たりの最大数更新）
・ 6月25日	276人（1日当たりの最大数更新）
・ 6月26日	250人
・ 6月27日	255人
・ 6月28日	266人
・ 6月29日	274人
・ 6月30日	281人（1日当たりの最大数更新）
・ 7月 1日	278人
・ 治癒数（累計）：	5,847人
・ 死亡者数（累計）：	27人

（1）6月18日

ア 18日の新規感染者85人の内訳は、検疫機関からの人が54人、国際長距離トラック運転手が3人、市中感染が28人（タシケント市13人、タシケント州14人、カシカダリヤ州1人）。検疫機関

からの感染者の内訳はタシケント市25人（ロシア、UAE、カザフスタンからの帰国者23人、記載無し2人）、タシケント州18人（記載無し）、ナボイ州6人（濃厚接触者）、カシュカダリヤ州5人（濃厚接触者）。

イ 18日の最終報告時点で、1,549人が入院治療中でそのうち12人が重症。18日現在、30,434人が自宅での隔離中、22,343人が隔離施設へ入所中である。

（2）6月19日

ア 19日の新規感染者179人の内訳は、検疫機関からの人が146人、国際長距離トラック運転手が4人、市中感染が29人（タシケント市24人、タシケント州2人、ナマンガ州3人）。検疫機関からの感染者の内訳はタシケント市91人（濃厚接触者73人、海外からの帰国者18人）、タシケント州35人（濃厚接触者8人、記載無し27人）、ホレズム州11人（全員が濃厚接触者）、ナマンガ州4人（全員が濃厚接触者）、ナボイ州4人（全員が濃厚接触者）、アンディジャン州1人（トラック運転手）。

イ 19日の最終報告時点で、1,654人が入院治療中でそのうち15人が重症。19日現在、33,601人が自宅での隔離中、22,875人が隔離施設へ入所中である。

（3）6月20日

ア 20日の新規感染者207人の内訳は、検疫機関からの人が179人（内訳の詳細記載無し）、国際長距離トラック運転手が9人、市中感染が19人（タシケント市13人、タシケント州4人、スルカダリヤ州1人、ホレズム州1人）。

イ 20日の最終報告時点で、1,844人が入院治療中でそのうち15人が重症。20日現在、37,812人が自宅での隔離中、23,015人が隔離施設へ入所中である。

（4）6月21日

ア 21日の新規感染者162人の内訳は、検疫機関からの人が127人（濃厚接触者57人、記載無し70人）、国際長距離トラック運転手が13人、市中感染が22人（タシケント市7人、タシケント州1人、ブハラ州11人、シルダリヤ州1人、サマルカンド州1人、アンディジャン州1人）。

イ 21日の最終報告時点で、1,919人が入院治療中でそのうち14人が重症。21日現在、37,314人が自宅での隔離中、22,812人が隔離施設へ入所中である。

（5）6月22日

ア 22日の新規感染者146人の内訳は、検疫機関からの人が136人（海外からの帰国者43人、濃厚接触者9人、記載無し84人）、国際長距離トラック運転手が5人、市中感染が5人（タシケント市3人、タシケント州1人）。

イ 22日の最終報告時点で、1,992人が入院治療中でそのうち19人が重症。22日現在、35,690人が自宅での隔離中、22,614人が隔離施設へ入所中である。

（6）6月23日

ア 23日の新規感染者201人の内訳は、検疫機関からの人が168人（海外からの帰国者15人、濃厚接触者53人、記載無し100人）、国際長距離トラック運転手が3人、市中感染が30人（タシケント市9人、ホレズム州6人、カシュカダリヤ州4人、ナマンガ州3人、タシケント州3人、アンディジャン州2人、スルカダリヤ州2人、シルダリヤ州1人）。

イ 23日の最終報告時点で、2,083人が入院治療中でそのうち21人が重症。23日現在、36,

294人が自宅での隔離中、22,656人が隔離施設へ入所中である。

(7) 6月24日

ア 24日の新規感染者239人の内訳は、検疫機関からの人が207人(海外からの帰国者125人、濃厚接触者82人)、国際長距離トラック運転手が1人、市中感染が31人(タシケント市18人、タシケント州5人、サマルカンド州8人)。1日たりの最大の新規感染者数としては、これまでの237人(6月7日)を超えた。

イ 24日の最終報告時点で、2,197人が入院治療中でそのうち19人が重症。24日現在、37,173人が自宅での隔離中、22,890人が隔離施設へ入所中である。

(8) 6月25日

ア 25日の新規感染者276人の内訳は、検疫機関からの人が243人(海外からの帰国者139人、濃厚接触者64人、記載無し40人)、国際長距離トラック運転手が9人、市中感染が24人(タシケント市17人、タシケント州4人、ジザク州2人、アンディジャン州1人)。1日たりの最大の新規感染者数としては、これまでの239人(前日)を超えた。

イ 25日の最終報告時点で、2,280人が入院治療中でそのうち24人が重症。25日の1日間でInstitute of Virologyにおいて21,148件のコロナウイルス検査が行われ、3月15日からの累計では121万1千236回の検査が行われた。

ウ 25日に報告された20例目の死亡者はスルカンドリヤ州の59歳女性。6月20日に死亡し、保健省は5日後にウイルス検査の結果が陽性であることを確認した。

エ この患者は6月19日にCOVID-19疑いで救急車により州感染症病院に搬送され、両側性急性気管支炎、重症の心不全・呼吸不全、COVID-19疑いと診断された。同時に慢性閉塞性肺疾患と慢性腎盂腎炎、中程度の貧血も指摘された。患者には5年間の気管支炎の治療歴があった。急性呼吸不全と循環不全により20日に死亡したが、死亡後時間が経過してからウイルス検査の結果が判明し、濃厚接触者である家族や関係者が検疫下におかれた。今回の例では、20日にこの患者はコロナウイルス感染による死亡と報道されたが、後に報道が削除され25日に再び報告された。保健省によれば各州の検査所でウイルス検査が陽性となった場合、検体をタシケント市の中央検査所(Institute of Virology)に送り、再検査による確認後に公表することになっているためと説明されている。

(9) 6月26日

ア 26日の新規感染者250人の内訳は、検疫機関からの人が220人(海外からの帰国者179人、濃厚接触者41人)、国際長距離トラック運転手が5人、市中感染が25人(タシケント市8人、タシケント州5人、ホレズム州10人、ブハラ州1人、シルダリヤ州1人)。

イ 26日の最終報告時点で、2,369人が入院治療中でそのうち26人が重症。26日現在、37,377人が自宅での隔離中、22,088人が隔離施設へ入所中である。

(10) 6月27日

ア 27日の新規感染者255人の内訳は、検疫機関からの人が169人(海外からの帰国者87人、濃厚接触者65人、記載無し17人)、国際長距離トラック運転手が32人、市中感染が54人(タシケント市39人、タシケント州6人、シルダリヤ州4人、スルカンドリヤ州4人、ブハラ州1人)。

イ 27日の最終報告時点で、2,422人が入院治療中でそのうち26人が重症。26日現在、39,673人が自宅での隔離中、23,991人が隔離施設へ入所中である。

(11) 6月28日

ア 28日の新規感染者266人の内訳は、検疫機関からの人が247人(海外からの帰国者138人、濃厚接触者45人、記載無し64人)、国際長距離トラック運転手が3人、市中感染が16人(タシケント市2人、タシケント州1人、アンディジャン州6人、サマルカンド州4人、カラカルパクスタン共和国2人、シルダリヤ州1人)。

イ 28日の最終報告時点で、2,597人が入院治療中でそのうち24人が重症。28日現在、40,120人が自宅での隔離中、23,332人が隔離施設へ入所中である。

ウ 28日の21例目の死亡者は、タシケント市ヤッカサライ地区医師会所属の52歳の医師で、国内の患者から感染した医療関係者の最初の死亡例である。6月14日以降、ユコリチルチック地区の検疫センター「Urtasaray」で勤務していた。6月23日にこの男性の容態が悪化しザンギオタの州感染症病院に入院し、急性心筋梗塞の診断で疫学微生物学病院に転院した。6月26日に集中治療室に入室したが、急性心筋梗塞による急性循環不全、呼吸不全で28日に死亡した。

エ 28日の22例目の死亡者は、タシケント市ユヌサバッド地区在住の42歳男性。6月20日にタシケント市共和国救急医療センターの集中治療室に重篤な状態(繰り返す急性脳梗塞)で入院となった。この男性は2018年に初回の脳卒中を起こしていた。22日、ウイルス検査で陽性の結果が判明しタシケント医学アカデミーに転院となったが、急激に状態が悪化し人工呼吸器装着となった。その後、急性脳血管障害および急性呼吸障害で28日に死亡した。

(12) 6月29日

ア 29日の新規感染者274人の内訳は、検疫機関からの人が244人(濃厚接触者29人、記載無し215人)、市中感染が30人(タシケント市20人、ブハラ州6人、ジザク州4人)。

イ 29日の最終報告時点で、2,702人が入院治療中でそのうち25人が重症。29日現在、40,293人が自宅での隔離中、23,485人が隔離施設へ入所中である。これまでに累計1,176,205回のPCR検査が実施された。

ウ 29日の23例目の死亡者はブハラ州シャフィルカン地区の58歳女性。6月21日にCOVID-19の疑いでブハラ州感染症病院に入院し、同時に冠動脈疾患、狭心症、皿度の肥満、高血圧症、肺塞栓症、呼吸不全の診断で集中治療を受けていたが29日に急性循環不全及び呼吸不全で死亡した。患者は過去8年間、狭心症、高血圧症、心不全の治療中であった。

エ 29日の24例目の死亡者はジザク州シャラフ・ラシドフスキー地区の72歳男性。6月20日に経過観察のため隔離施設に収容され、22日にジザク州感染症病院に入院した。25日にコロナウイルス陽性と判明したが、既に第Ⅱ度の呼吸障害を伴う重症のCOVID-19であり、同時に左気管支炎、第Ⅱ度呼吸不全、狭心症、高血圧症、重度の糖尿病を指摘された。患者は過去10年間、冠動脈疾患、狭心症、糖尿病の治療中であった。入院後、状態が悪化し集中治療室に入ったが29日、急性心筋梗塞、急性循環不全及び呼吸不全で死亡した。

(13) 6月30日

ア 30日の新規感染者281人の内訳は、検疫機関からの人が255人(海外からの帰国者146人、濃厚接触者65人、記載無し44人)、国際長距離トラック運転手が1人、市中感染が25人(タシケント市13人、タシケント州9人、サマルカンド州3人)。

イ 30日の最終報告時点で、2,795人が入院治療中でそのうち26人が重症。30日現在、40,

218人が自宅での隔離中、24、168人が隔離施設へ入所中である。

ウ 30日の25例目の死亡者はジザク州の70歳女性（29日に死亡した24例目の妻）。6月20日にCOVID-19の疑いで隔離施設に收容され、23日に州感染症病院の集中治療室に転院した。患者は過去10年間、冠動脈疾患、狭心症、頸椎骨軟骨症の治療中であった。30日、急性心筋梗塞による急性循環不全、呼吸不全で死亡した。

エ 30日の26例目の死亡者はカラカルパクスタン共和国タキアタシュ地区出身の62歳男性。6月10日、カザフスタンから帰国したシケント市ヤッカサライ地区の検疫施設に入った。6月15日、併存疾患の治療のためにヤッカサライ地区病院に入院、冠動脈疾患、狭心症、肝不全と診断された。19日、コロナウイルス陽性と診断されタシケント医学アカデミーに転院し集中治療室で治療を受けていたが、30日、急性呼吸不全により死亡した。この男性は過去5年間、冠動脈疾患、狭心症、慢性心不全、肝不全の治療中であった。

（14）7月1日

ア 1日の新規感染者278人の内訳は、検疫機関からの人が218人（海外からの帰国者168人、濃厚接触者50人）、国際長距離トラック運転手が10人、市中感染が50人（タシケント市35人、ブハラ州5人、シルダリヤ州5人、ホズム州4人、カラカルパクスタン共和国1人）。

イ 1日の最終報告時点で、2,907人が入院治療中でそのうち25人が重症。1日現在、40,311人が自宅での隔離中、24、576人が隔離施設へ入所中である。

ウ 1日の27例目の死亡者はカシュカダリヤ州グザール地区在住の64歳男性。6月7日にタシケント州ヤンギル地区に行き、6月12日にタシケントーカルシ間をアフロシヨブ号で移動し帰宅した。15日に発熱したが医療機関を受診せず自宅療養していた。患者は過去5年間、重症の糖尿病を患っていた。29日、健康状態が悪化したためグザール地区病院を受診し、両側の重症急性肺炎、心不全および呼吸不全、重症糖尿病と診断され入院し集中治療を受けていたが、1日、急性循環不全および呼吸不全で死亡した。

（6月19日～7月2日付保健省ウェブサイト・テレグラム、各種報道）

## 2. 経済

### 【景気・経済統計】

#### ●2020年4月時点で対外債務が251億米ドルに到達

・中央銀行のレポートによると、ウズベキスタンの対外債務は、2020年の初めから2.8%、すなわち6億9,200万米ドル増加し、本年4月1日時点で251億米ドルとなった（当館注：この内、政府による対外債務が161億7,130万米ドルで65%を占め、民間部門による対外債務が35%で88億8,940万米ドルを占める）。

・本年第1四半期において、対外債務は引き続き増加している。これは、新型コロナウイルスの感染拡大によって発生した危機がもたらす社会・経済的悪影響の軽減、並びに地域及び経済発展に向けた国家プログラムの資金調達のために、新規借入を実施したことが原因である。

・本年第1四半期において、政府による対外債務は3億8,500万米ドル増加した。同時に、世界的なパンデミックを背景に、株式市場における為替相場下落により、「ウ」のソブリン債の価値も同様に下落した。また、銀行及びその他の経済部門の企業による借入が増加した結果、民間部門の対外債務は

3億700万米ドル増加した。

(6月19日付 Kun. uz)

## 【経済政策】

### ●日本、韓国、UAEとの経済協力に関するミルジヨーエフ大統領主催のテレビ会議

・7月2日、ミルジヨーエフ大統領は、2020年上半期のウズベキスタンの投資・対外貿易活動の予測指標の実施に関する議論、並びに、日本、韓国、アラブ首長国連邦(UAE)との優先的共同プロジェクト及び貿易・経済、投資、金融技術協力の拡大の見通しの検討に関するテレビ会議を行った。

・会議において、投資の誘致及び輸出に関する予測指標の確実な達成、並びに外国のパートナーと締結した合意の適時の実施に向けた包括的措置に関する提案を含む、投資・対外貿易省に課された課題の実施状況に関する報告がなされた。

・今日、多くの分野が新型コロナウイルスに関するリスクの影響を受け、投資の予測指標の達成が遅れていることが指摘された。本年末までに期待されている成果を確実に達成するために、予定されているプロジェクトの指標及びリストを再検討するよう指示がなされた。本年末までのウズベキスタンへの投資総額は99億米ドルで、その内訳は68億米ドルの外国直接投資及び31億米ドルの国際金融機関からの融資となる予定である。経済発展を牽引する重要な原動力の一つとして、輸出活動の支援措置に対して特に注意が払われた。

・近年、日本、韓国、UAEとの貿易量は着実に増加しており、各国首脳との会談の結果採択された「ロードマップ」の枠組において様々な分野の新たな協力プロジェクトが実施されている。

#### ・日本

(1) 日本のパートナーとの協力により、「ウ」において、地質学、化学・石油化学、銀行・金融、保健、教育分野で計48件、総額56億米ドルのプロジェクトが実施されていることが強調された。

(2) 特に、HISとのホテル複合施設の建設、いすゞ及び伊藤忠商事との合弁企業であるSamAutoの生産能力の拡大、国際協力機構(JICA)とのナボイ火力発電所の電力ユニットの建設、その他のプロジェクトが成功裏に実施されている。

(3) コロナの感染拡大にも関わらず、本年初より、現代の情報技術の活用を含む、両国の政府及びビジネス界間の相互の接触が活発化していることが強調された。

(4) 「ミ」大統領は、具体的な経済プログラム及びプロジェクトを前進させることを通して、日本との実務協力を拡大する必要性を特に指摘した。

#### ・韓国

(1) 近年、韓国との二国間協力も順調に発展している。本年初から貿易額は10億米ドルに達した。また、韓国資本が関与した新たな企業が60社設立され、韓国との合弁企業総数は855社となった。

(2) 本年、タシケント市における小児総合医療センター、フェルガナ市における「ウズベキスタン-韓国国際大学」の設立プロジェクトが成功裏に実施され、これにより約1,000人の新たな雇用が創出されたことが指摘された。

(3) 韓国国際協力団(KOICA)及び経済発展基金を通じた金融・技術支援プログラムの枠組において、科学技術センター及び高齢者を対象とした診療所の建設、並びに医療及び教育機関の整備を含む計17件、総額7億5,000万米ドル以上のプロジェクトが実施されている。

(4) 日本及び韓国との共同プロジェクトを通して、総額10億米ドル以上の外国投資の誘致が予定されている。

・UAE

(1) 2019年の「ミ」大統領によるUAE訪問の結果、貿易・経済及び投資契約を含む重要な二国間文書が締結された。エネルギー、インフラ、化学・石油化学、農業、観光、その他の分野の共同プロジェクトの実施が予定されている。

(2) 今日、UAEとの総額40億米ドルの具体的なプロジェクトが策定されており、UAEの資本が関与した合併企業数は141社となった。

(3) UAEとの合意が実を結びつつあることが指摘された。特に、Masdar社は、ナボイ州において500MWの発電容量を持つ風力発電所の建設に投資を行っており、投資総額は5億米ドル以上である。

(4) アブダビ開発基金が関与し、資本金が10億米ドルの共同投資企業が設立され、同社は、最初のプロジェクトへの融資を開始した。また、同基金は、サマルカンド市におけるインフラの近代化にも参画している。

(5) UAEの国営投資企業であるMubadala社は、エネルギー分野及び炭化水素の生産・加工の拡大に関するプロジェクトを実施している。

・「ミ」大統領は、日本、韓国、UAEとの協力に関する2020年の「ロードマップ」において示された措置の完全かつ高水準な実施の必要性を強調した。また、会議で議論された上記の内容に関して関係省庁の長による報告がなされ、具体的な課題及び措置が特定された。

(7月2日付大統領府ウェブサイト)

**【産業】**

特になし。

**【対外経済】**

●在京ウズベキスタン大使館他と山梨学院大学のテレビ会談

・6月18日、在京ウズベキスタン大使館の支援を受けて、山田・山梨学院大学理事（ママ）と高等中等専門教育省、建設省、タシケント建築土木大学のテレビ会談が行われた。

・山梨学院大学は、幼稚園、小学校、中学校、高校、大学教育を擁する総合教育機関である。現在、国内外の多くの提携大学とのコンソーシアムをはじめ、教育の国際化に積極的に取り組んでいる。

・「ウ」における（山梨学院大学の教育プログラムを実施する）大学の開校は、同大学がシンガポールのERC Instituteと提携して実施する共同教育プロジェクトに基づいて行われる。これに加え、同プロジェクトには、同大学の国外の提携大学（米国、英国、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、エストニア、中国、マレーシア、印）及びその他の日本の大学の教育プログラム・コースが含まれている。

・「ウ」で開校される将来の大学の教育は、学生と教員が参加するキャンパスにおいて、（オンライン上でいつでもどこでも今まで通りに）デュアルプラットフォームに基づくトレーニングプログラムを提供する革新的プロジェクトである。

・デジタルプラットフォームにおいては、バーチャルリアリティー、シミュレーション教育、その他の

機能などの高度な技術が利用される。これにより、学習内容の習得だけでなく、実験室での研究などがより促進される。更に、このような形式の教育は柔軟性を持っており、現在発生している新型コロナウイルスのパンデミックのような緊急事態において大きなポテンシャルを秘めている。

・（「ウ」で開校される大学の）学生は、複数の大学の教育プログラムを選択することができるようになる。そのプログラムは、主に建築土木、マネジメント、人文科学、ロボット工学、農学、情報技術、日本研究、スポーツ科学である。卒業生は、自身の研究を修士・博士課程で継続することができる。また同大学は、職業教育コースを開講し、資格証明書を取得する機会を提供する。

・当事者らは、同プロジェクトのフィージビリティに関する議論を今後も継続する。

（6月18日付 DUNYO）

### ●広島大学とタシケント医師専門性向上大学によるテレビ会議の実施

・6月19日、効果的な新型コロナウイルス対策における国際協力の強化の一環として、ウズベキスタンと日本の専門家が「Covid-19の感染拡大対策における日本の経験」というテーマでテレビ会議を実施した。

・日本側からは、感染症分野における著名な専門家で、新型コロナウイルス感染症対策政府委員会（ママ）のメンバーでもある田中純子広島大学副学長が参加した。「ウ」側からは、ハビブラ・アキーロフ・タシケント医師専門性向上大学学長の他、「ウ」の主要な感染症の専門家、肺疾患専門医、内科医、疫学者及び救急医が参加した。

・会議において、感染の拡大とその期間、感染経路、新型コロナウイルス感染症患者の検査と治療における特性について意見交換が行われ、予防措置の検討、無症状期間の問題、及び治療の有効性について特別の関心が向けられた。

・田中副学長に対し、感染拡大の阻止、患者の効果的な治療、必要な予防措置の実施のための大規模な対策に係る「ウ」の一貫した努力について説明がなされた。

・会議の最後に、「ウ」側は、）広島大学側と、専門家間による実務的なコンタクトを維持し、相互協力を強化することで合意した。

（6月19日付 DUNYO）

### ●ウムルザーコフ副首相兼投資・対外貿易大臣とオヴェルチュク露副首相他の会談

・投資・対外貿易省広報部によると、6月23日、ウムルザーコフ副首相兼同大臣は、露への実務訪問中に、オヴェルチュク露副首相、マントウロフ露産業商務大臣、レシェトニコフ露経済開発大臣と一連の会談を行った。双方は、二国間の貿易、経済、投資協力を深化させる方法について議論した。

・2020年第1四半期に、露からウズベキスタンに3億2,950万米ドルの投資が行われた。本年末までに、15億米ドルの投資が行われる見込みである。投資・対外貿易省によると、2019年、露から「ウ」に13億米ドルの投資が行われており、本年の投資額の成長率は15%となる見込みである。

・6月23日、モスクワにおいて、ミルジヨーエフ大統領とプーチン大統領は、とりわけ120億米ドル以上の新プロジェクトの実施を含む、二国間協力の進展状況について議論した。現在、露による「ウ」への投資総額は、100億米ドル以上となっている。

・露側は、積極的な共同事業により、両国の貿易額が今後100億米ドルに到達することが可能になる



旨強調した。

・同省によると、2019年の両国の貿易額は、前年比で17%増加し66億米ドルとなった。昨年、露の資本によって484社の新たな企業が「ウ」に設立され、露が資本参加している「ウ」における企業数は計1,828社となった。

(6月24日付 Gazeta)

#### ●独フォルクスワーゲン車の生産体制の詳細

・ミルジヨーエフ大統領は、大統領令「ウズベキスタンにおけるフォルクスワーゲンの小型商用車の生産を組織化するプロジェクトを実施するための措置」に署名した。

・「ウ」での独車の生産は、2段階で進められる。最初の段階では、2020年及び2021年に完成車が輸入され、タシケント、フェルガナ及びジザクにディーラーとサービスネットワークが設立される。ジザク自動車工場の従業員は、サイトでの組立てと品質管理に必要なトレーニングを受ける。その後、大型の部品の組立てが組織化され、その間に、独企業（フォルクスワーゲン）の専門家が元の生産基準に準拠した品質管理を実施する。

・2021年11月1日までに、プロジェクトの第2ステージへの移行に関する特別投資契約が締結される。この段階では、コンプリートノックダウン（CKD）の組織化のパラメータと企業の既存資産の少なくとも30%を投資し、市場に対する独占販売権が決定される。

・ジザク自動車工場のオイベック・アユーボフ工場長は、ウズベキスタン24の番組の中で、「第2段階では、溶接、塗装、組立てプロセス、全国のディーラーネットワークの拡大を含む完全な生産サイクルが設立される。工場で生産し、販売されるフォルクスワーゲン車は、走行距離の制限なしに2～3年の保証付きで提供される」と述べた。

・従って、本プロジェクトは、以前に承認された「プジョー」ブランドによる車両の生産のための投資金額（1億3,300万ユーロ）の範囲内で資金を提供するが、フィージビリティスタディでは、コスト調整を考慮に入れている。同時に、購入する機器の要件が「フォルクスワーゲン」ブランドの下で変更され、技術機器の配置の調整も可能である。

・潜在的な市場規模としては、昨年1年間で、1億3,200万米ドル相当、約1万8,000台の小型商用車が「ウ」に輸入された。

(6月26日付 Podrobno)

#### ●日本・ウズベキスタン両国の専門家によるダム安全性の確保に関するテレビ会議

・ウズベキスタン及び日本の専門家が会議を行い、その中でダム安全性の確保及びその効果的な活用に向けた協力に関する幅広い問題が議論された。

・同会議は、在京「ウ」大使館のイニシアチブによりテレビ会議形式で、「ウ」水利省、日本の国土交通省、「ウ」の外交官らの参加を得て開催された。

・双方は、ダム安全強化に向けた提言を策定するための経験共有、並びに「ウ」の専門家を対象とした研修プログラム及びウェブセミナーを開催することで合意に達した。

・国際協力機構（JICA）を通じた、上記分野における共同プロジェクトの策定・実施を行う大きな可能性がある旨指摘された。

・なお、日本は、最先端技術・手法を駆使した水力施設の建設及び安全操業に関して世界をリードする国の一つである。

(6月26日付Dunyo)

### ●ボラー米国際開発金融公社（DFC）最高経営責任者（CEO）とウムルザーコフ副首相兼投資・対外貿易大臣他との会談

・ウムルザーコフ副首相兼投資・対外貿易大臣との会談

(1) 6月30日、ウムルザーコフ副首相兼投資・対外貿易大臣とボラー米国際金融公社（DFC）最高責任者（CEO）の会談が行われ、二国間関係の強化の文脈における協力の発展の見通しが議論された。

(2) 「ボ」CEOは、民間セクター及びインフラ開発を目的とする優先プロジェクト及びイニシアチブへの共同融資を通じて、ウズベキスタンにおける社会・経済改革のプロセスにDFCが直接関与することへの関心を示した。

(3) 実務的な協力の段階へ迅速に移行するために、DFCに対して、農業、軽工業、薬剤、建築資材生産の分野における27件の具体的な投資プロジェクトを検討する提案がなされた。

(4) DFCは、太陽光及び風力エネルギー及び輸送セクターの官民パートナーシップ（PPP）プロジェクトに参画する可能性を検討する用意がある旨表明した。

(5) また、双方は、「ウ」における巨大国営企業及び商業銀行の民営化に関与している民間投資家にDFCが融資を行う可能性についても議論した。

(6) 中央アジアの他の国々及びアフガニスタン政府の将来的な参加も視野に入れた、DFC及び「ウ」政府が参画する共同投資基金を設立する可能性を個別に議論した。同基金の役割は、エネルギー、インフラ、教育、保健分野における地域的重要性を持つ優先プロジェクト、並びに女性企業家の支援及び雇用の確保に向けたイニシアチブを実施することである。同基金の設立に、他の関係機関を誘致する可能性も検討された。

(7) 地域における経済協力を発展させる問題も議論された。効率的な物流ルートの確立及び国際的に重要な交通ハブと連結するための越境鉄道インフラの拡大を目的とした相互協力の重要性が指摘された。

(8) 会談後、達成された合意の完全な実施、並びに新たな協力分野の策定を目的とした共同作業部会を設立することで合意に達した。

(7月1日付投資・対外貿易省ウェブサイト)

・ナルバーエヴァ上院議長との会談

(1) 6月30日、ナルバーエヴァ上院議長と「ボ」CEOが率いる米国代表団との会談が行われた。

(2) 会談において、二国間関係の更なる強化は両国の優先事項の一つであることが協調された。

(3) 近年、両国の議会間関係が力強く発展していることが指摘された。これは、多くの点において、ミルジヨーエフ大統領による開放的、建設的、実用的な外交政策によるものである。

(4) 更に、両国の議会間関係に多くの注意が払われている旨指摘された。両国の協力に関する議会グループ、米国議会における「『ウ』に関する党員集会」の建設的な対話の更なる発展、並びに民主的改革及び市民社会の形成の推進に関して意見交換を行った。

(5) 上院及び議会における女性の役割、並びに社会における女性の地位の向上及び「ウ」における男

女平等を確保するために講じられた措置についても言及された。

(6) 双方は、二国間関係における貿易、経済、財政、投資、最新技術分野の協力の拡大について議論を行った。

(7) また、DFCとの互惠的協力分野、強制労働対策及び同分野における共同作業の見通しが協調された。

(8) 更に、一連の共同プロジェクトの策定及び実施に関して提案がなされた。すなわち、「ウ」の社会経済・社会政治における問題の解決、「ウ」の議員及び議会職員による米国の経験を学ぶための米国議会での研修、「ウ」で起業を計画している女性によるイノベーション技術の活用、農村部における女性企業家の発展、女性に対する暴力及び人身売買対策の実施における議会の役割の更なる向上を目的とした、議会制度を支援するための提案がなされた。

(7月1日付最高議会上院ウェブサイト)

### ●「中央アジア+米」外相会合記者会見におけるEAEUに関する発言

・「C5+1」会合の結果として、米務省は露の中央アジアへの影響に競合するつもりは無いと述べた。同会合の主な議題は、来るべき米軍のアフガニスタンからの撤退、地域経済協力及びコロナ禍への対応であった。

・ジョナサン・ヘンリック中央アジア担当國務次官補代理は、7月1日の記者会見において、米国は中央アジア地域のさらなる安全と繁栄を歓迎し、各国は開発の方向性を自由に選択する権利があると述べた。

・同次官補代理はまた、米国がコロナ禍対策として中央アジア地域に25百万ドルの予算を投じる旨述べた。さらに、同次官補代理は、米国は世銀及びIMFと協力し、中央アジアに対してさらなる支援を実施する旨述べた。

・「Kommersant」記者から、ウズベキスタンのユーラシア経済同盟（EAEU）へのオブザーバー加盟に対する米国の態度について質問されたのに対し、同次官補代理は明示的に、米国は中央アジア各国への露の影響に競合するつもりはないとして、「米国はEAEUのメンバーではないため、本交渉にコメントする立場にはない。『ウ』の参加に関する交渉は継続中である。この問題について『ウ』の国民が心配していると理解している。米国は『ウ』の国民による世界市場及び投資へのアクセス拡大を支援したい。『ウ』があらゆる経済ブロックや貿易関係及びWTO加盟を考慮して、最適な選択をすることを望む」と述べた。

(7月2日付 Kun. uz)

### ●「中国－キルギス－ウズベキスタン」鉄道建設に関するウズベキスタン・キルギス両国運輸大臣による電話会談

・7月1日、ガニーエフ運輸大臣とベイシェノフ・キルギス運輸道路大臣の電話会談が行われた。

・会談において、「中国－『キ』－『ウ』」鉄道の建設の加速化に関する問題が議論された。とりわけ、この大規模プロジェクトの実施に向けて、(鉄道)ルートの選択及びその他の技術的・財政的条件に関連する具体的な問題を議論するためにテレビ会議を開催することで合意した。

・来週、中国側との合意の下、同プロジェクトの実施における実務的課題の解決を加速化することを目

的として、閣僚レベルでの次回のテレビ会議の開催が予定されている。

・また、会談の冒頭、双方は、中央アジア諸国とアジア太平洋地域の相互貿易の拡大に重要である複合一貫輸送回廊「（江蘇省）連雲港－蘭州－カシュガル－イルケシュタム－オシューアンディジャン」の利用効率を高める問題についても議論した。

・会談の最後に、双方は、鉄道による輸送量を更に増やすために、中国からイルケシュタムを經由してオシュの鉄道駅までコンテナを輸送するユニット・トレイン（石炭・小麦など同種貨物を大量輸送する列車）を運行させ、中国の都市と中央アジア・コーカサス諸国を通過する列車の自由な往来を確保することで合意した。

（7月2日付 UzDaily）

## 【ドナーの動向】

### ●国際金融公社（IFC）がイポテカバンクの民営化並びに「ウ」中小ビジネス支援のために3,500万米ドルを拠出

・財務省広報部によると、世界銀行グループの一員である国際金融公社（IFC）が、イポテカバンクの民営化の支援、並びにウズベキスタンにおける中小ビジネスへの資金提供の規模を拡大するために、3,500万米ドル相当のスムを「ウ」に融資する。

・同融資は、IFCによる「ウ」における民営化プログラムの支援、並びに国営銀行が多数を占める「ウ」の銀行セクターへの投資家誘致という戦略的優先分野の一つである。

・中小ビジネスへの融資の増加に加え、イポテカバンクの組織再編は、他の国営企業の民営化のモデルとなり、「ウ」銀行セクターに対する民間投資家の積極的な誘致に資する。

・現在、「ウ」の銀行セクターにおける国営銀行の割合は大きく、「ウ」における30の銀行の内、5行は完全な国営銀行で、8行は国有株の割合が50%以上を占めている。

・IFCによる「ウ」における投資ポートフォリオは、5,300万米ドルであり、同ポートフォリオには金融及び繊維分野のプロジェクトが含まれている。IFCによるコンサルティングプログラムは、2行の国営企業の民営化、綿花セクターの改革、金融市場の発展及び多角化を含む、国営企業が関与する官民パートナーシップ事業の実施に資する。

（6月23日付 Gazeta）

### ●アジア開発銀行（ADB）がウズベキスタンに対する5億米ドルの融資を承認

・財務省広報部によると、アジア開発銀行（ADB）は、優遇条件での5億米ドルの融資をウズベキスタンに対して拠出する決定を承認した。

・同融資は、財務省付属（新型コロナウイルス）危機対策基金及び国家予算に対して、同ウイルスのパンデミック及び世界的危機が引き起こす悪影響を軽減する措置の資金として割り当てられる。

・同融資に先立ち、公的債務のリスクを含む「ウ」のマクロ経済状況の分析がADBによって行われた。同分析の結果、「ウ」の公的債務のリスクは低く安定した水準にあると評価された。

・同省によると、優遇条件での5億米ドルの融資は、返済期間15年（3年間の返済猶予期間を含む）で、米ドル6か月LIBORにスプレッド0.5%を加算した利率で拠出される。

・なお、本年4月上旬、「ウ」政府は、同ウイルス対策を行うための国家予算を補完することを目的と

して、ADBに対して最大10億米ドルの支援を要請していた。ADBは同時に、「ウ」におけるパンデミック対策を行うための医療需要を満たすことを目的として20万米ドルの無償資金を承認した。

(6月25日付 Gazeta)

#### ●韓国が新型コロナウイルス対策のために500万米ドルを拠出

・在ウズベキスタン韓国大使館によると、韓国政府は、新型コロナウイルスの感染拡大への対策のために、500万米ドルの「包括的緊急措置」を実施することを決定した。

・このため、韓国国際協力団(KOICA)「ウ」事務所と投資・対外貿易省は、同プロジェクトを出来るだけ早く実施するために覚書に署名する予定である。

・同プロジェクトには、医療機器の調達、医療専門家のスキルの向上、同ウイルスに関する情報を提供するモバイルアプリの開発、社会的保護を必要とする人々に対する個人用防護具の提供など、同ウイルス対策に関する全ての活動が含まれる。

・韓国は「ウ」に対して、両国の特別な戦略的パートナーシップの枠組において、同ウイルスがもたらす危機を共に克服することを目的として、上記の支援を行う。(韓国による)同プロジェクトは、限られた一部の国でのみ行われている。

(6月29日付 Gazeta)

#### 【その他】

特になし。